

京都市動物園 京都の森 育成5年計画

目標景観の方針設定

●森林景観としての育成

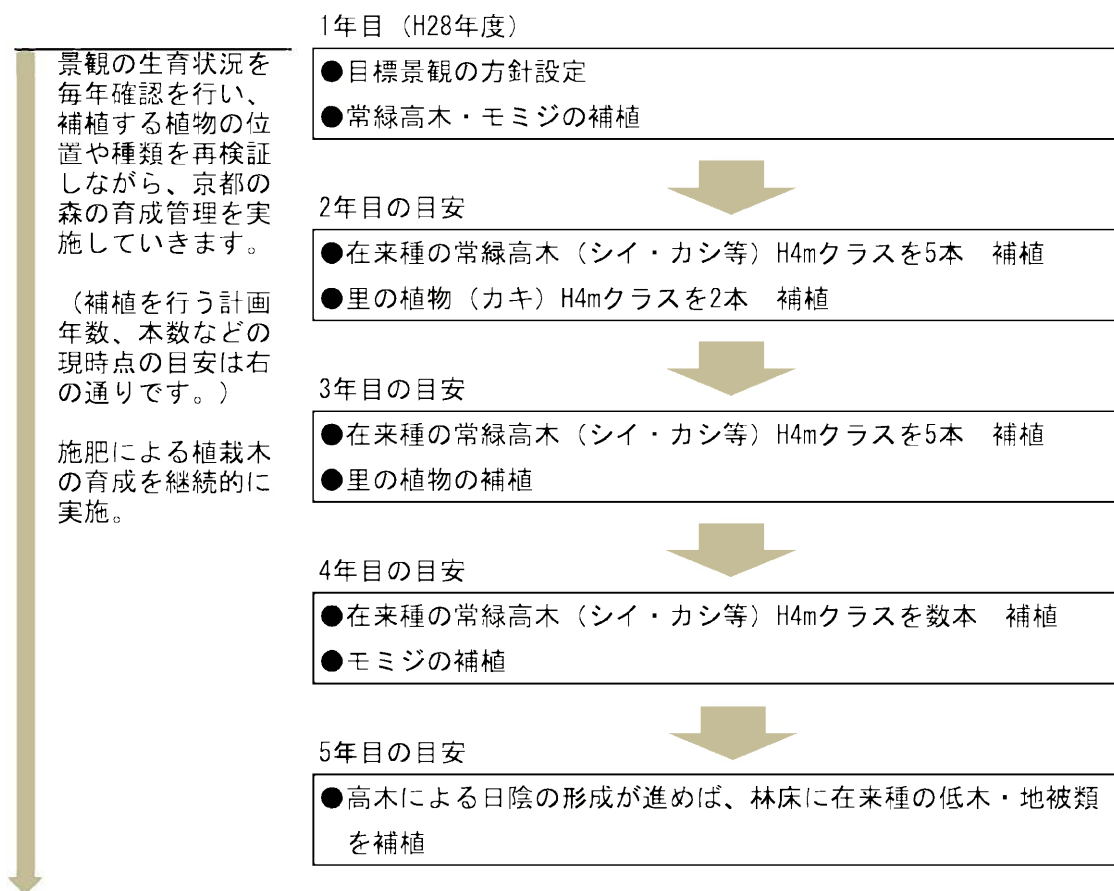
現状は植栽後の年数が浅く、森に例えると亜高木層（中木層）が主となっているため、植栽木の生長を促し高木層を育成しながら、その日陰の発達のものちに低木層を植栽することで、森林景観としての階層構造の形成を目指します。山野の低木・地被類の植栽により、来園者が四季を楽しめる空間づくりを進めます。

また、現在は落葉樹が大勢を占めているため、秋の紅葉の後は景色がさみしい上、京都の森エリアの柵田から奥へ向かって、動物のゲージ、敷地外の住宅まで視線が通り抜けてしまうため、常緑樹の補植を進めることにより、森の背景的な常緑の木立を形成するとともに、ゲージや住宅への視線を和らげます。

また、モミジの補植により、来園者に喜ばれる紅葉の景観づくりを行います。

●里の景観づくり

里の植物（樹木、足元の植物など）の補植を進めていくことにより里の景観づくりと、来園者のお楽しみ要素を、より展開できるようにしていきます。



”京都の森”の育成管理を持続的に実施

京都の森 育成5年計画図 <2017年度から2020年度までの補植候補位置>

